

(地域施策推進事業)

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び取組方向
総務企画部	齋藤秀樹	地域企画課	企画・観光振興班	堀川 克利	0187-63-5114	移住者受入推進事業	仙北地域の人口の社会減縮小を図るため、県内移住者と市町職員及び県職員と座談会を行うことにより、移住希望者を官民協働ネットワークへ誘導するとともに空き家の利活用促進を図る。	422,376	委託・直営	・移住者交流会の実施と普及啓発 開催日 令和元年12月6日 会場 PLUS CAFE 大曲駅前店 参加 移住者4名、市町職員2名、地域おこし協力隊3名、大仙市移住コーディネーター1名	県、市町、解体工事業協会、土地家屋調査士会、全日本不動産協会、司法書士会、行政書士会、建築士会	移住者、移住希望者、空家所有者	平成31年4月1日	・官民協働の移住サポート体制について、移住希望者等を行政以外のネットワークに誘導することは意義があること、ニーズがあることが確認できた。 ・相談者の満足度が9割近くと高く、ニーズに合った行政サービスの提供ができています。	・移住者が気軽に相談、情報交換できる場を充実させ、参加が増えるよう支援していく。 ・空き家の利活用促進を図るよう、引き続き市町関係団体と連携して無料相談会を開催するなど継続的に取り組んでいく。
						平成31年4月1日～令和2年3月31日				・空き家の無料相談会の開催 第1回開催日 令和元年6月8日 会場 美郷町公民館ホール 件数 18件 第2回開催日 令和元年8月11日 会場 仙北市角館交流センター 件数 17件 第3回開催日 令和元年11月2日 会場 大仙市大曲交流センター 件数 13件			令和2年5月20日		
総務企画部	齋藤秀樹	地域企画課	企画・観光振興班	堀川 克利	0187-63-5114	防災減災啓発事業	防災・減災に対する地域住民の意識向上のために、「楽しみながら身につく、考える防災」をテーマにカフェを開催する。	97,356	直営	防災カフェ開催 第1回開催日 令和元年9月29日 会場 大仙市、参加 24名 第2回開催日 令和元年12月15日 会場 仙北市、参加 14名	県、子育てサポーター	子育て世代の者	平成31年4月1日	・子育て支援団体、女性消防団とのつながりができ、それぞれ双方で防災啓発の大切さを認識し、今後も啓発関連の事業の必要性を伝えることができた。 ・女性消防団の活躍の場と消防団員のPR機会を提供できた。	気軽に防災の知識に触れられるよう引き続きカフェ形式のセミナーを開催する。
						平成31年4月1日～令和2年3月31日				令和2年5月20日					
総務企画部	齋藤秀樹	地域企画課	企画・観光振興班	堀川 克利	0187-63-5114	中高生等の地元定着支援事業	仙北地域の人口の社会減縮小を図るため、高校2、3年生向け企業説明会を実施する。また、県外在住者に向けて地元での就職を選択してもらうため、地元や県外イベントにおいて地元就職支援に関する情報を記載した情報発信ツール等を配布する。	556,673	直営	・高校3年生向け企業説明会 開催日 令和元年7月8日 会場 大曲エンバイヤホテル 参加 52社、生徒 174名 ・高校2年生向け企業説明会 開催日 令和2年2月17日 会場 仙北ふれあい文化センター 参加 41社、生徒 362名 ・一般求職者向け面接会・企業説明会等の開催 開催日 令和2年1月12日 会場 フォーシーズン(大仙市) 参加 41社、102名	県、市町、ハローワーク	高校生、一般求職者	平成31年4月1日	・高校3年生は企業への応募前見学や企業の絞り込み等、就職活動の本格化に繋がり、高校2年生は進路決定に当たって地元就職を選択する動機付けとなった。 ・一般求職者向け面接会・企業説明会後、就職決定件数が8件あった。	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、高校生の県内就職志向への期待が高まる反面、県内企業の景況や雇用確保の情勢は予断を許さない状況にあり、引き続き地元就職を選択する動機付けの機会を提供していく。
						平成31年4月1日～令和2年3月31日				令和2年5月20日					

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	齋藤秀樹	地域企画課	企画・観光 振興班	堀川 克利	0187-63- 5114	企業カトレーニング「2050 に向けた事業継続」応援 事業	県内企業間での人材獲得 競争が続く中、仙北管内 の各企業がその魅力と企 業価値を高め、次世代に 事業を継続できるよう各企 業・産業の支援に取り組 む。	444,200	委託・直営	・「自社の魅力UP採れる企業セミナー」の 開催 開催日 令和元年7月8日 会 場 大曲エンパイヤホテル 参 加 26社、約50名	県、市町、ハ ローワーク、 (株)TMO大曲	企業経営 者、若者	平成31年4月1日	・企業経営者が、働き方改 革を通じた魅力ある職場 が業務効率化や人手不足 解消にも繋がることを認識す るきっかけとなった。	仙北管内の各企業の魅力 と企業価値を高めるた め、企業リーダーによる意 見交換会を開催するな ど、引き続き各団体と連携 して取り組んでいく。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日				・新卒に関する早期求人 要請とともに、各参加団体 関係者間で情報共有が実 現した。					
総務企画部	齋藤秀樹	地域企画課	企画・観光 振興班	堀川 克利	0187-63- 5114	地域の活性化に向けた活 動促進事業	仙北地域の多様な主体に よる様々な地域活性化活 動の促進を図るため、地 域活性化活動を実施・支 援する。	537,261	委託・直営	・秋田内陸沿線での田んぼアート制作の支援	県、農家	観光客、参 加選手	平成31年4月1日	各市町や団体等と連携し て事業を実施し、仙北地 域の活性化に繋がった。	今後も地域の活性化活動 を促進するため、各市町 や団体等と連携して事業 を実施していく。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日				・100キロチャレンジマラソン運営支援					
福祉環境部	豊島優人	企画福祉課	調整・障害 者班	高橋 知之	0187- 63-3403	アルコール関連問題対策 事業	アルコール関連問題は、 本人のみならず家族や地 域に深刻な影響を及ぼし ていることから、早期介 入と効果的な支援を図る ため、幅広く関係機関の 連携を図るとともに、相 談機関の資質向上及び普及啓 発に取り組んでいく必要 がある。	231,360	直営	・アルコール関連問題地域連携検討会 令和元年9月25日、24名	県	相談機関職 員、一般県 民	平成31年4月1日	・医療機関や行政、地域の 自助グループが一堂に 会し情報交換などを行っ たことにより、これまで 以上に多面的に課題や役割 を共有することが出来た。	医療機関や行政のほか、 自助グループ等が一堂に 会することで、様々な立 場の方々の顔の見えるつ ながりが築かれ始めてお り、今後、そうした関係を 強化し、切れ目ない効果 的な支援に結びつけてい く。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日				・アルコール依存症に関するリーフレット 10,000部作成、400カ所へ配布					
福祉環境部	豊島優人	健康・予防 課	健康・予防 班	大門 洋子	0187- 63-3404	働き盛り世代のメタボ対 策	当管内で生活習慣病によ る死亡率やメタボリックシ ンドローム該当者が県平 均を上回っている現状か ら、メタボ対策に重点的 に取り組むことにより、健康 寿命の延伸を図る。	279,320	直営	・関係者との連絡会議 令和元年12月16日、当部会議室 出席 17名	県	健康づくり 関係者及び 事業所職員	平成31年4月1日	連絡会議では、働き盛り 世代の健康づくりの必要 性について情報共有でき た。商工会3か所で、先 駆的に教室を実施できた ので、取組状況を他の事 業所へ紹介し、健康づく りの必要性を地域へ啓 発していきたい。	健康づくり教室前後の アンケート調査から、野 菜不足や塩分過多、運動 不足等の実態が把握でき た。健康づくりに取り組 む動機付けや、個人や 職場全体での継続が課 題である。今後は職場 の取組の紹介や健康づく り情報を盛り込んだリー フレットを作成し、事業 所に配布する。
						平成31年4月1日～ 令和2年3月31日				・健康づくり教室 前期3回、後期3回 参加 66名					

(地域施策推進事業)

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び取組方向
農林部	石井公人	農業振興普及課	産地・普及班	石井清一	0187-63-6110	園芸作物加速化・パワーアップ事業	園芸品目の生産拡大を図るため、県内トップシェアに位置する主要な園芸品目の生産拡大に向け、JA・市町との協議により、大規模園芸拠点の整備、生産技術の向上等による販売額の増加につなげる。	630,875	直営	【菌床しいたけ、シャインマスカット】 ・栽培講習会、ほ場巡回の実施 栽培講習会:6月7日ほか5回・参加200名 園地巡回:4~3月 ・視察研修 横手:8月8日・参加25名 秋田:10月11日・参加13名 ・目揃会(9月6日ほか1回) ・シャインマスカット品質検討会:10月2日・参加19名 ・ぶどう加工支援 試作品試食:1月23日 委託製造講習会:2月27日・参加27名 ・菌床しいたけへの支援 品質査定会:10月28日・参加3名 【いぶりがっこ】 いぶりがっこ用大根への支援(燻製試作機テスト:4~12月、大根品種試験:9~11月) 【NAMAHAGEダリア】 NAMAHAGEダリア技術課題解決実証(実証ほの設置:5~11月、実証ほ結果報告:1月28日) 【アスパラガス】 ・アスパラガス先進地視察(新型コロナウイルス感染症により中止) ・アスパラガス半促成栽培病害虫対策(調査、農業選定:4~3月) 【えだまめ】 えだまめ品質向上等に向けた支援 目揃い講習:7月17日、9月19日、10月7日・参加86名 巡回指導:7~10月 【ダリア】 ダリアの日持ち性向上支援(大田市場調査9/4~6、日持ち性PR10月23日~11月1日、栽培指導5月~12月) 【産地PR活動の支援】 農業体験ツアー:8月20日・参加30名	県	アスパラガス生産者、えだまめ生産者、種なし大粒ぶどう生産者、しいたけ生産者、ダリア生産者	平成31年4月1日	【菌床しいたけ】 管内しいたけの品質、市場評価の把握と情報共有が図られた。 【シャインマスカット】 栽培者の生産技術及び知識の向上が図られ、次年度生産に向けての意欲の向上が見られた。 【いぶりがっこ】 試作機の能力の把握ができた。品種試験での適応性が把握された。 【NAMAHAGEダリア】 採花率向上のための技術確認ができた。 【アスパラガス】 半促成型での病害発生状況の把握と農業選定ができた。 【えだまめ】 品質向上が図られ、市場クレームの減少につながった。 【ダリア】 花持ち性の違いが確認でき、高温期の切り前見直しにつながった。 【産地PR活動の支援】 消費者の理解醸成につながり、仙北の園芸産地PRと職に関するネットワークが広がった。	以下について引き続き取り組んでいく。 【シャインマスカット】 ・生産者の栽培技術格差の解消 ・加工製品の委託販売の推進 【NAMAHAGEダリア】 需要期に合わせた作型の検証 【アスパラガス】 継続した病害虫調査と防除層の改編
						平成31年4月1日~令和2年3月31日	【高校生に対する就農啓発】 ・意見交換会:12月23日・参加25名 ・農業フォーラム:2月12日・参加330名 【若手農業者の経営力・販売力向上】 ・視察研修:11月19~20日・参加2名 ・販売活動支援7月13日、7月20日、8月4日、8月11日、10月19~20日、10月27日 ・首都圏マーケティング研修2月26~27日・参加5名 【ICT活用モデルの検証】 ・パワーアシストスーツの導入推進 ・水田センサーによる水管理システム実証 ・スマート農業技術の開発実証 【下水汚泥等の活用モデルの検証】 ・下水汚泥の再利用実証			665,754			直営	県	若手農業者、農業研修生、大曲農業高校、農業法人
令和2年5月20日	・パワーアシストスーツの導入により、軽労化が図られ、身体的負担の軽減につながった。														

(地域施策推進事業)

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的・必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果	今後の課題及び取組方向
建設部	酒井不二彦	企画・建設課	企画監理班	佐藤元彦	0187-63-3111	<p>高校生と保護者による現場施設見学会</p> <p>平成31年4月1日～令和2年3月31日</p>	<p>高校生及び保護者を対象とした現場施設見学会を実施する。</p> <p>見学会を通じて、社会資本の整備や建設産業への興味・関心を高めるとともに、具体的な仕事の内容を理解することにより、就業に対するイメージを醸成する。</p>	39,890	直営	<p>・大曲工業高校生を対象としたICT現場見学会 開催日 令和元年9月17日 場所 雄物川 参加 15名 内容 ICT建機による施工実演・試乗、3次元測量の実演、ドローン操作体験 他</p> <p>・大曲農業高校生を対象とした現場見学会・企業訪問 開催日 令和元年11月15日 場所 檜岡川 他 参加 7名 内容 河川工事、ほ場整備現場等の見学、3次元測量の実演、建機の体験乗車、地元建設企業訪問</p>	県	高校生、県・大仙市(若手技術職員)、建設業協会	<p>平成31年4月1日</p> <p>令和2年5月20日</p>	<p>・実施後の参加者アンケートにより、「ICT導入による建設技術の進歩を実感した」「女性でも操作ができるのはいいこと」「将来の進路を考える上で参考になった」との声が聞かれた。</p> <p>・企業訪問では、卒業生社員による講話に熱心に耳を傾け、社会人としての自覚や学生時代に学ぶべき点等について質問が出されており、高校生に対し、県内建設企業で働くイメージを多少ならず持たせられたものと感じている。</p>	<p>・最新のICT技術に触れられる機会ということで、例えば3次元測量の概念や建設機械の無人施工の仕組みなど、高校生には難解な内容が含まれていた。</p> <p>・学校を通じて保護者への参加をお願いしたが、参加者はなく、小中学校と違って、親子同伴での参加といった雰囲気はなかった。実施する場合は親子別行程の検討も必要だと感じた。</p> <p>・今後については、県外・大手企業にはない県内就職の魅力を一層伝えることや、対象を中学生まで広げるなど、担い手の「裾野拡大」を図ってきたい。</p>